

令和6年度 えびの市立飯野中学校「学校評価」 自己評価の結果について

〈えびの市立飯野中学校 校長 黒葛原武〉

今年度の教育課程特例校における学校評価「自己評価」の結果をお知らせいたします。

今後も、保護者や地域の方々と連携しながら、生徒の「学力向上」と「健全育成」に努めてまいりますので、御理解と御協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

1 学校の教育目標

「徹底した学力向上」「礼節を知る」「体力・競技力の向上」

2 学校経営ビジョン

「持続可能な社会の創り手」となる生徒の育成を目標に掲げ、家庭・地域と連携しながら、「飯野中でしか味わえない教育」を推進する学校を目指す。

3 自己評価の結果

上記の学校の教育目標と学校経営ビジョンを踏まえて、別添の「生徒、保護者、教員へのアンケート調査」の結果を参考に4つの観点から自己評価を行いました。

【4段階評価】4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

4つの観点	項目	評価	
		内容別	観点別
① 学力向上	(1) 生徒は、授業や学校の教育活動において、飯野中スタンダード（2分前着席、机の整理・整頓、立腰）を守り、目的意識をもって勉強し、学力向上に努めている。	3	3
	(2) 生徒は、家庭において、自分で決めた時間に、きちんと宿題や家庭学習（宅習）に取り組んでいる。	3	
	(3) 生徒は、本や新聞を読んでいる。	2	
	(4) 学習充実期間やメディア週間（9月と2月）などについて、学校と家庭が連携して取り組んでいる。	3	
	(5) 教員は、「わかる」「できる」授業の充実を目指し、日々授業改善に取り組んでいる。	3	
	(6) 教育課程特例校による「英語表現科」の時間の学習により、外国語能力の向上につながっている。	4	
	(7) 教員は、タブレット（ＩＣＴ機器）等を授業で積極的に活用している。	3	
② 豊かな心の育成	(8) 生徒は、立ち止まって、相手の目を見てあいさつをしている。	3	3
	(9) 生徒は、友達のよさを見付け、思いやりの心をもって友達と楽しい学校生活を送れるよう心掛けている。	4	
	(10) 生徒は、毎日、自分の1日を振り返る時間をつくり、自分が頑張ったこと、反省すること、今後頑張りたいことなどについて考えている。	3	
	(11) 生徒は、学校行事や係活動に意欲的に取り組んでいる。	4	
	(12) 生徒は、友達や先生方、地域の方々のためになること（ボランティア活動等）を実践したりしている。	2	
	(13) 教員は、「SOSの出し方教育」等に積極的に取り組み、一人一人の生徒に寄り添い、支援の充実につなげている。	2	

③ 健康・体力の 増進	(14) 生徒は、部活動やその他の活動など、意欲的に運動・ス ポーツに取り組んでいる。	3	3
	(15) 学校は、避難訓練(地震・火災・自然災害)等を計画的 に行い、防災教育の充実に努めている。	3	
	(16) 生徒は、歯磨きを実践してむし歯予防に努めるととも に、むし歯ができたら、進んで治療している。	2	
	(17) 生徒は、自分で食事や弁当を作るなど、正しい食事の在 り方や自らの健康管理について、意識している。	3	
④家庭・地域と 連携した 教育活動の推進	(18) 学校は、学校だより、学年・学級通信の発行、安心メー ル、ホームページへの情報掲載などをとおして、教育活 動等を保護者及び地域へ広く情報発信している。	3	3

4 各評価項目の分析・所見

※ 表の%はアンケート調査における「肯定的な回答」の割合を示す。

【4つの観点①：学力向上】

- (1) 生徒は、授業や学校の教育活動において、飯野中スタンダード（2分前着席、机の整理・整頓、立腰）を守り、目的意識をもって勉強し学力向上に努めている。

生徒		保護者		教員	
第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査
90%	93%	85%	89%	89%	90%

【分析・所見】

今年度も年度当初に生徒と教師で飯野中スタンダード（2分前着席、机の整理・整頓、立腰）について確認を行い、保護者にもお知らせした。ここでは、教育活動を進める際に基本となる事項が掲げられており、それぞれが確認することでより充実した授業等を展開することができていると考える。この件に関しては、保護者の理解も高く、全体で8割以上が活動を評価している。引き続き、生徒会執行部や全校専門委員会が中心となって「授業を大切にする」等の雰囲気づくりに努めると共に、教員も「時間を守ろう」(授業50分)という意識をもって行動したい。今後も学力向上を支える「飯野中スタンダード」の定着に努めたい。

- (2) 生徒は、家庭において、自分で決めた時間にきちんと宿題や家庭学習（宅習）に取り組んでいる。

生徒		保護者		教員	
第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査
57%	69%	63%	62%	26%	55%

【分析・所見】

本校の生徒の実態として、自ら高い目標を掲げ学習に取り組む生徒もいる一方で、「何を勉強すればよいのか分からない。」等といったように、主体的に取り組もうとする力の定着が図られていらない生徒もいる現状があった。そのため、勉強の仕方、学びに取り組む姿勢や方法を紹介し、自宅学習ノートの提出をやめ、自らに必要な学習は何かを考えさせ、主体性を伸ばす取組を行っている。生徒は「第1回」アンケートで6割程度であったが、「第2回」アンケートでは7割程度と増加している。教員は「生活の記録」等で生徒の自覚が高まりつつある点を評価しつつある。年度当初から教育相談において、生徒に個別に助言をしたり、家庭との連携を図ったりして取り組んできた成果であると分析する。これからも「毎日決められた時間」に「決められた場所」で「その日習ったことの復習」等をしっかりと行えるよう助言をしていきたい。さらに、家庭学習に励むことができるよう全体指導と個別指導にも努めていきたい。

(3) 生徒は、本や新聞を読んでいる。

生徒		保護者		教員	
第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査
48%	42%	58%	28%	11%	20%

【分析・所見】

生徒一人一人にタブレットが支給されたことで、本や新聞を直接手にしなくても、タブレットやスマートフォン等の情報機器等を活用して情報を得ることができる環境が整っている。そのことが調査結果に表れている。生徒は、学校で新聞の記事がタブレットで読めるサイト：「新聞活用学習サイト（みやスタ）」等を授業中も活用しており、今後もこの活動が充実していくと思われる。

学校においては、今後も図書委員会の生徒や担当者が中心となって、新刊本の定期的な購入し「本の紹介」や「家読」などをより充実させ取組を行っていきたい。

(4) 学習充実期間やメディア週間（9月と2月）などについて、学校と家庭が連携して取り組んでいる。

生徒		保護者		教員	
第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査
62%	72%	58%	65%	89%	100%

【分析・所見】

定期テスト前は、一定期間部活動を中止することで家庭での学習の時間を確保するようしている（学習充実期間）。前もってテスト前の学習計画を詳しく立て、保護者にも確認をお願いしている。メディアに関しては、「保健室だより」や「各種便り」、保健体育の授業において、上手に利用することを啓発しているが、ゲームやスマホを使用する際の「家庭での決まり」を設けていないケースも多いため、今後も学校から積極的に働きかけることで連携を図っていきたい。

(5) 教員は、「わかる」「できる」授業の充実を目指し、日々授業改善に取り組んでいる。

生徒		保護者		教員	
第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査
94%	93%	92%	94%	100%	100%

【分析・所見】

全職員が「わかる」「できる」授業の充実を目指し、授業改善への取組である「一人一授業」に日々熱心に取り組んでいる。同じ教科間での授業参観に留まらず、他教科、校種を越えて小学校や高等学校にも授業参観を呼びかけ公開することで、授業力アップに繋げようとしている。教員は、「授業前には授業場所に行き、授業終了のチャイムで授業を終わる。」ことに努めることで、メリハリのある授業づくりに学校全体で取り組んでいる。

今後も、管理職による日常的な授業参観をはじめとし、授業改善に対する取組を重ね、授業の更なる質の向上に努めていきたい。

(6) 教育課程特例校による「英語表現科」の時間の学習により、外国語能力の向上につながっている。

生徒		保護者		教員	
第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査
82%	87%	85%	81%	94%	100%

【分析・所見】

教育課程特例校による「英語表現科」はえびの市全中学校で実施している特設の教科である。教科で身に付けた外国語能力を活用し、実践的なコミュニケーション能力の育成につなげができるものと考えている。今年度も英語検定の上級への資格取得にも果敢に挑戦し合格する生徒が増えるなど、大きな成果を得ている。今後も、えびの市の中学校の特色と言える「英語表現科」の充実に努め、生徒の更なる外国語能力の向上に努めていきたい。

(7) 教員は、タブレット（ICT 機器）等を授業で積極的に活用している。

生徒		保護者		教員	
第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査
91%	92%	92%	93%	89%	99%

【分析・所見】

昨年度、本校は宮崎県教育委員会より ICT 機器を授業で活用した研究を推進するよう研究指定を受け、授業を公開し多くの方々に参加していただいた。昨年度の流れを受け、今年度も日常の授業において計画的に ICT 機器を使用することができている。厚生労働省の調査によると、ICT 機器を活用した授業に対して教員の 8 割以上が、生徒の「意欲を高めること」「理解を高めること」「思考を深めたり広げたりすること」「表現や技能を高めること」に効果的だったと述べていることから、今後も計画的に活用を図りたい。また、タブレットの持ち帰りも含め効果的な活用を進めていきたい。

【4つの観点②：豊かな心の育成】

(8) 生徒は、立ち止まって相手の目を見てあいさつをしている。

生徒		保護者		教員	
第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査
84%	86%	83%	90%	67%	55%

【分析・所見】

昨年度までは、「語先後礼」を掲げ指導を行ってきたが、生徒にしっかりとあいさつをする習慣を身に付けさせるために「立ち止まって」「相手の目を見て」という点に絞って指導を進めてきたが、調査結果から生徒と保護者の捉えと、教員との捉えは乖離している。今後も生徒指導・保健安全部を中心とした啓発を行い、少しずつ徹底が図られるよう指導していきたい。今後一層の意識の高揚に繋げ、本校の伝統としてのあいさつの在り方について、整理し、指導の徹底に努めたい。

(9) 生徒は、友達のよさを見付け、思いやりの心をもって友達と楽しい学校生活を送るよう心掛けている。

生徒		保護者		教員	
第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査
96%	95%	98%	98%	100%	100%

【分析・所見】

本校は「SOS の出し方教育」「ピア・サポート活動」の研究に取り組んだことを生かし、「生徒の居場所づくり」「仲間づくり」に努めている。各学級の設営や各学年のフロアでの掲示物を充実させることは、生徒にとって友達ばかりでなく、自分自身を大切にすることにも繋がっている。

今後も、「ピア・サポート」の取組など、他の良さを認め、思いやりの心を大切にする諸活動・教育に引き続き取り組んでいきたい。

(10) 生徒は、毎日、自分の 1 日を振り返る時間をつくり、自分が頑張ったこと、反省すること、今後頑張りたいことなどについて考えている。

生徒		保護者		教員	
第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査
58%	64%	46%	67%	84%	100%

【分析・所見】

今年度は、日々の帰りの会において、全校一斉に放送による「一日を振り返る時間」を設け、校内放送等で呼びかけも行ってきた。各学級では、代表生徒が「学級日誌」にその日の出来事を記入し、次の日の目標を設定したりもしている。こういった取組を行っていることから、教師は「生徒は十分に 1 日を振り帰っている」と捉えているものと考えられる。しかし、各家庭にお

いては、学校からの指導や支援が十分でないことが分かる。今後も校内においては取組の充実を図り、並行して保護者に対しても語らいや振り返りの時間を設けてもらえるよう啓発を進めていきたい。

(11)生徒は、学校行事や係活動に意欲的に取り組んでいる。

生徒		保護者		教員	
第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査
93%	94%	91%	94%	100%	100%

【分析・所見】

この項目は、昨年度と同様に割合が高い。生徒は、体育大会や文化発表会等の学校行事に好んで参加する生徒が多い。そこには達成感や成就感を味わうことができ、満足感に浸る姿もよく目にする。また、PTA役員の方々や保護者、地域の方々からも御協力を得て、生徒たちの活動を側面から御支援いただいている。係活動においても、限られた時間の中で、生徒会役員や全校専門委員を中心に熱心に取り組んできた。最近では、校内外で行われた「募金活動」や「受験生への応援メッセージ」等が挙げられる。今後も、生徒が活動する時間の確保に努め、自らで企画・運営する力を身に付けさせていきたい。

(12)生徒は、友達や先生方、地域の方々のためになること（ボランティア活動等）を実践したりしている。

生徒		保護者		教員	
第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査
59%	60%	63%	80%	100%	95%

【分析・所見】

今年度も生徒会役員や部活動によっては、「朝の清掃活動」や「朝のあいさつ運動」等を実施しており、ボランティアに対する意識は高いと分析している。また、生徒たちは困っている人がいたら手助けをしたり、教員から頼まれた事に素直の応じてくれたりする姿が見られ、労を厭わない生徒が多いことが分かる。生徒の調査結果が低いのは、「ボランティア活動」を大きなものと捉えている可能性もある。今後も、校内外におけるボランティア活動等を広く紹介したり、雰囲気を高めたりして、対応していきたい。

(13)教員は、「SOSの出し方教育」等に積極的に取り組み、一人一人の生徒に寄り添い、支援の充実につなげている。

生徒		保護者		教員	
第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査
80%	80%	91%	84%	94%	95%

【分析・所見】

この項目の評価が高い理由として、これまで宮崎県教育委員会の「ひなたセーフティプロモーションスクール推進事業推進校」の指定を受け、「SOSの出し方教育」「ピア・サポート活動」の研究に取り組んできたこと、また、校内研究として、メンタルヘルストレーニング等に取り組んできたことが挙げられる。教師は「生徒に寄り添っている」と感じているが、生徒や保護者は、より教師に期待していることも考えられる。引き続き、「生徒の活動する場に教師がいる」ことを周知し、支援の充実に繋げていきたい。

【4つの観点③：健康・体力の増進】

(14)生徒は、部活動やその他の活動など、意欲的に運動・スポーツに取り組んでいる。

生徒		保護者		教員	
第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査
86%	85%	82%	92%	100%	100%

【分析・所見】

部活動においては、今年度も、中体連総合体育大会、中体連秋季体育大会等、地区大会で見事な成績を収め数多くの部活動が県大会に出場することができた。市内の中学校と連携（拠点校）できたこと良い結果に繋がっている。また、文化部である吹奏楽部においても、少ない人数を感じさせない活動ぶりで九州大会まで出場することができた金賞を受賞した。保護者の方々も日々の活動を側面から支えていただき、心からありがたいと感じている。

今後も、部活動やその他の活動を中心にしながら、運動・スポーツへの生徒の意欲を更に高めていきたい。

(15)学校は、避難訓練(地震・火災・自然災害)等を計画的に行い、防災教育の充実に努めている。

生徒		保護者		教員	
第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査
97%	88%	99%	99%	100%	100%

【分析・所見】

今年度は、7月に地域の方々やえびの市役所、関係機関等の協力を得て、川内川の河岸で「水害」発生時等への、地域や行政の対応（備え）について防災教育を行うことができた。具体的な指導をとおして、多くの生徒が災害発生時に「中学生としてできることに積極的に取り組みたい」という思いを抱いていた。今後も、地域の学校として、生徒と保護者、地域の連携が深まるよう手立てを講じていきたい。

(16)生徒は、歯磨きを実践してむし歯予防に努めるとともに、むし歯ができたら進んで治療している。

生徒		保護者		教員	
第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査
95%	96%	94%	94%	80%	80%

【分析・所見】

本校の生徒の「歯の治療が必要な人」は、42人（23%）（2月6日現在）である。養護助教諭や学級担任が啓発を行っているところである。部活動顧問・学級担任が連携し、治療を優先する働きかけを行い、養護助教諭による見届けも行っている。多くの生徒は、給食後や各家庭での食後に歯磨きを行いむし歯予防に努めているが、中には治療が済んでいない、もしくは病院に行っていない生徒が含まれていると考えられる。治療費については、えびの市の支援により、中学生までは、「月額：800円」が上限とされていることから、治療が必要な生徒に対しては、引き続き早期治療を呼びかけていきたい。

(17)生徒は、自分で食事や弁当を作るなど、正しい食事の在り方や自らの健康管理について、意識しようとしている。

生徒		保護者		教員	
第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査
66%	60%	48%	63%	80%	75%

【分析・所見】

「弁当の日」や「食の日」の取組は、本年度も夏休みに実施し、文化発表会等で取組を紹介することができた。また、地域の方々に御協力をいただきながら調理実習を行ったり、栄養教諭と連携した授業を実施したりしてきた。

評価については、生徒・保護者・教師の全ての数値が高いとは言えないが、学校で学んだことを各家庭で生かしながら、食に関する意識を高めることの大切さを粘り強く啓発し、意識と行動が変化するよう取り組んでいきたい。

【4つの観点④：家庭・地域と連携した教育活動の推進】

(18)学校は、学校だより、学年・学級通信、安心メール、ホームページへの情報掲載などをとおして、学校の教育活動等を保護者および地域へ広く情報発信している。

生徒		保護者		教員	
第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査	第1回 アンケート調査	第2回 アンケート調査
95%	88%	100%	98%	100%	100%

【分析・所見】

今年度も、「学校ホームページの充実」と「学校だより」の地域を含めてのお知らせに努めてきた。学校だよりに関しては、「安心・安全メール」を活用し、保護者の方々にお届けすることで、ペーパーレスと印刷代の節約に繋がっている。しかし、紙ベースで配付しないため生徒が読んでいない可能性もあるため、今後は検討していきたい。今後も、積極的な情報発信に努め、家庭・地域と連携した教育活動の一層の推進につなげていきたい。

5 自己評価の総評及び次年度の方策

【総評】

今年度も、年度当初から中体連地区大会や体育大会、職場体験学習や文化発表会等、3年生を中心に「生徒が主役」となり、意欲的に取り組む姿が見られ、一人一人の生徒が輝いていた。3年生の姿は、1・2年生にも影響を与え、秋に新メンバーで臨んだ中体連秋季体育大会地区予選においても見事な成績を収める結果となった。さらに文化部の吹奏楽部も日頃の活動の成果を披露し、マーチングでは九州大会に出場し「金賞」を受賞した。その他、各種大会や発表会、生徒会役員を中心とした自治的な取組等、生徒が活躍する場を多数設けることができ、生徒の成長を感じることができた。

P T A役員の方々や地域の方々には、常日頃から本校の教育活動に対し、御理解や御協力をいただき、生徒のために御尽力を賜り、心から有り難く感じているところである。

今後も保護者・地域と連携しながら、全職員一丸となって、「飯野中」でしか味わえない教育を展開する学校を目指していきたい。

【次年度の方策】

- I C T機器の効果的な活用
- 家庭と連携した基本的な生活習慣や学習習慣の指導の徹底
- ボランティア活動や生徒会活動などの充実
- 学力向上
- 安心・安全指導の徹底